

「2022年度中国・浙江大学スプリングスクール（オンライン）派遣参加報告書」

京都大学総合人間学部1年 吉澤皓貴

このプログラムはオンラインで中国語のレッスンを受けるとともに、中国の文化や経済を英語でレクチャーを受け、浙江大学の学生と交流するという内容だった。中国語のレッスンではオンラインであるが少人数クラスでのオール中国語の授業であったため、中国語をたくさん聞くことができるとともに講師と生徒の双方向性も確立されていてたくさん中国語を話すことができた。初めは講師の方が何を言っているのか全くわからなかったが、最後の授業では最初の授業より確実に多くの単語を聞き取れるようになり成長を感じた。しかし、講師の方と話す中で、自分は中国語の声調の意識が甘く伝わらないところが多くあることがわかったので今後の中国語の勉強ではより一層声調を意識を持っていきたいと思う。また、そもそも知っている単語の量が圧倒的に足りず、継続的に単語の勉強を続ける必要があると身に染みて感じた。また、中国の文化についてのレクチャーについては西湖の紹介をするものがあったが、西湖の美しさに心を打たれた。自分は上海についての知識は多少あったが、杭州についての知識は全くなく、上海付近は近代的な都市が広がっているという認識であったため西湖のように歴史的で自然豊かな場所があることを知って、とても興味を持った。大学生の間に必ずいきたいと思った。浙江大学の学生との交流では日本語を専攻としていない大学生とも英語で交流をしたが、浙江大学の学生のフレンドリー精神にとっても驚いた。互いに慣れない英語でのコミュニケーションになったが、ジェスチャーと笑顔で友好的であることがしっかり伝わってきてとても気持ちよかったし、僕自身もより一層中国に対する印象が良くなった。今後については中国語の勉強を続けていき3回生になるタイミングなどで中国へ実際に留学したいという気持ちが強くなった。そのために日本でできるだけ多くの単語を覚え、中国人の友達と中国語で話し、インプットとアウトプットをバランスよく行なっていきたいと思う。特に苦手と感じた発音に関しては中国人の友達に直してもらうことによって少しずつ改善していきたいと思う。また、今回中国人と会話をしてみて外国人と話すとは外国語の練習となるとともに外国人の日本人と違う固定概念や思考過程を発見できることも楽しかったので、中国人だけでなく京都大学や京都に来ている多くの外国人とコミュニケーションをとってほしいと思った。